

# なのはな通信

第8号 2002.7



編集・発行

勤医会東葛看護専門学校

〒270-0174 千葉県流山市下花輪409

TEL 04-7158-9955 FAX 04-7159-7055

発行責任者 小澤 清子



校内体育祭 “ピース”

## 戦争する国にさせてはならない

校長 三上 満

二十一世紀初頭、日本は今、大きな曲がり角にきている。その最大のもの、いわゆる「有事法制」を定めることで、戦争をしない国（できない国）から、戦争をする国（できる国）になろうとしていることである。

日本は侵略戦争をひきおこし、アジア諸国民に大きな被害を加えた。日本国民自身も犠牲となり、その深い反省から戦後再出発した。戦争をしない誓いの最大のものと言うまでもなく憲法九条である。だがそれだけではない。

戦争を決して望まない国民が政治の主人公になるしくみ、すなわち国民主権の国になった。また戦争の大きな原因は「貧しさ」にある。貧しい国民は「領土を広げれば豊かになる」との誘導にのりやすい。憲法二十五条が保障する生存権は、その意味で平和の保障でもある。

それだけでもない。土地収用も軍事目的はだめと定められ、戦費を賄うための「日銀による国債のひき上げ」も固く禁じられた。日本は戦争をしたい人にとって、窮屈ながんじがらめの国になったのである。

ドラマ「金八先生」の作者小山内美江子さんが中東の難民キャンプを訪問された時の話である。「日本がうらやましい。戦争のない国だから」と難民から口々に言われたという。そしてびっくりするほどたくさんの方が憲法九条のことを知っていたと言う。

有事法制は「戦争のできない国」として歩んできた日本の姿を、根本から変えてしまおうとする企てである。有事即応ができるためには「平時」から「いざ有事」という時に対応できる体制をつくっておかなくてはならない。「備えあれば憂いなし」と言うがその後には「攻撃は最大の防御」という言葉が控えている。

アジアに向けていつも戦争準備をしている国、日本をそんな国にさせてはならない。「戦争をしない国」こそ最高の「備え」なのだ。ワールドカップに集った世界の人々も、そういう日本をこそ望んでいるに違いない。

# 2002年度教育活動

主な学校行事、教育活動は次の通りです。

## 2002年度教育活動（4月～7月）

	学校行事	1科1年	1科2年	1科3年	2科1年	2科2年
4月	8日 始業 9日 第8回入学式 1科41名 2科39名 26日 防災訓練	18～19日 合宿研修	「生命活動」 の学び	9～10日 地域フィールド 発表	18～19日 合宿研修	
5月		7日～8日 病院探検	30～31日 生命活動発表	13日～6/5日 成人Ⅲ実習		7～7/26 各論前期実習
6月	7日 第8回体育祭		10～23日 成人Ⅰ実習		「地域フィールド」 の学び	
7月	5日 千葉県下看護 学校体育大会 2日 第1回運営 委員会 29日～8/24日 夏期休暇	10日 基礎Ⅰ実習 24日 基礎Ⅰ実習 発表	18日～19日 成人Ⅰ実習 ゼミナール	1～4日 成人Ⅲ実習 ゼミナール 8～25日 老年実習 高齢者フィールド 国試補講	19日 地域フィールド 発表	各論 前期実習 ゼミナール 国試補講

## 今後の予定（8月～3月）

	学校行事	1科1年	1科2年	1科3年	2科1年	2科2年
8月	26日 始業 30日 平和学習会 総合防災訓練 31日 ときめき学校探検		27～29日		「生命活動」の 学び開始	
9月	13日 第5回自治会総会		9/3～12/5 成人Ⅱ実習			2～27日 各論後期実習
10月	5～6日 東葛祭 秋の学生健診 第2回運営委員会 18日 同窓会総会	21～24日 基礎Ⅱ実習		8～12日 研修旅行 25日 両科合同 研修旅行発表会		8～11日 研修旅行 25日 両科合同 研修旅行発表会
11月	20日 両科推薦入試 27日 県下看護学生 研究発表会 30日 第8回 キャビンゲセミナー	基礎Ⅱ実習 ゼミナール		10/28～11/21 総合実習 県下研究発表会	25日 「生命活動」 発表	11/11～ 総合実習 県下研究発表会
12月	国試願書提出 27日～1/11 冬期休暇		11日～ 成人Ⅱ実習 ゼミナール	16～17日 総合実習発表会	2～19日 基礎実習	総合試験 24～25日 総合実習発表会
1月	14日 始業 17～18日 1科入学試験 31～2/1 2科入学試験	20～2/6 基礎Ⅲ実習	地域フィールド 事前訪問		基礎実習 ゼミナール	
2月	23日 第92回 看護師国家試験 第3回運営委員会		地域フィールド	23日 看護師 国家試験		23日 看護師 国家試験
3月	8日 第7回卒業式 28日 国試合格発表 17日～ 春期休暇	基礎Ⅲ実習 ゼミナール				

# 爽やかな汗 体育祭

六月七日校内  
体育祭が開催さ  
れました。

毎週金曜日、

昼休みに体育祭  
実行委員会を開  
き、全校学生で  
楽しめて、クラ  
スの団結力が深  
められる様な体

育祭にしたいと

進めてきました。集まりが悪かった  
り、意見があまりでなかったり、実  
習中のクラスがあつたりで、うまく  
伝達ができなかったこともありまし  
たが、体育祭が近づくとつれ、意見  
もまとまっていきました。体育祭一  
週間前は、放課後毎日残って準備を  
しました。最終確認を何度もしまし  
たが、果たして体育祭が成功するの  
か不安でした。

体育祭当日、スローガンは「F I

FA 東葛カップ 2002くハ  
トワングドル」で、心を一つにして  
楽しくできればいいなと思っていま  
した。午前中は交流種目の手つなぎ  
おに、クラス対抗のバレーボール、  
バスケットボールでした。予想以上

に盛り上がりうれしかったです。午  
後は二人三脚、ドッチボール、大な  
わとびがクラス対抗で盛り上がりま  
した。実行委員会は時間内で終わら  
せられるか心配していましたが、無  
事終わることができ、安心しました。  
爽やかな汗をかいだ一日でした。

一週間後体育祭実行委員会を開き、  
反省会をしました。各クラスからも  
感想をだしてもらいました。「充実し  
て楽しかった。」「種目が沢山あつて  
良かった。」「試合を沢山できて良か  
った。」「ルールや審判がよくわから  
なかった。」「  
などが  
出ま



これらの意  
した。



見を参考に、  
来年は  
もつ

に引き継いでいきたいです。

体育祭が成功したのも、各クラス  
の実行委員をはじめ、先生方、クラ  
スの皆の協力があつたからだと思ひ  
ます。ありがとうございます。

尚、七月五日に開催された県下  
看学生親睦体育大会は、昨年当校担  
当時の親睦を重視した方針が踏襲さ  
れていました。又、バスケットボー  
ルが、当校開校以来初の三位入勝と  
大健闘しました。

(1科2年 持永 麻衣)

## 公開講座のお知らせ

昨年ハンセン病元患者狩雄二  
さんをお招きし、御好評をいた  
だきました臨床指導者研修会の  
一環である記念講演を、今年も  
公開講座とします。

今回は、化学の模擬授業を通  
して「物質の本質を理解するこ  
との大切さと、その理解にいた  
る過程をどのように創造してい  
くか」という課題を実践的に語  
っていただき「真の学力の探求」  
について考える機会にしたいと  
思います。多くの皆さんにご参  
加いただければ幸いです。

日時 八月三日(土) 十三時～十五時  
場所 当校講堂

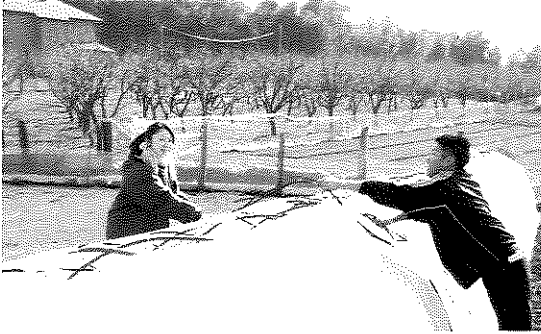
テーマ 「物質の本質に迫ろう」

講師 竹内信次郎先生(高校教師)

— 化学模擬授業を通して —

# 地域 フィールド ~その後の取り組み

二〇〇二年二月十二日〜十四日の三日間、看護第1科6期生四十名は地域フィールドの実習を行いました。地域フィールド実習は、『国民が安心して幸せに生活し、働くための社会の仕組み、看護の役割について考える上で労働・健康・保険医療をめぐる地域の実態を学ぶ』ことを目標に、企業・町工場で働く労働者、自営業・農業を営む方々、大気汚染公害や基地問題で被害を受け、闘っている方々に密着し、労働体験や生活体験をおして、また労働者や地域住民の健康を守る医療活動に参加するなかで学びを深めていくものです。生活体験の希薄な学生達にとって実際に聞きし、体験することはとても新鮮で、今後臨床の場で患者さんを応援していく上で『目の前にいる

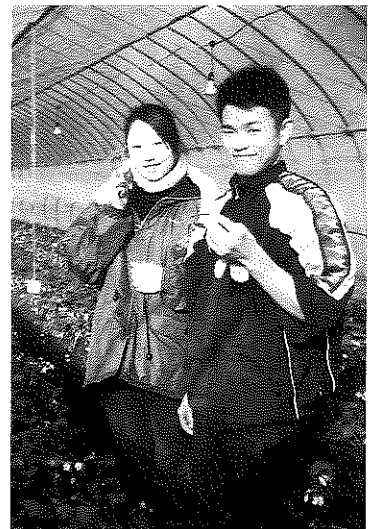


患者さんにはその人の歩んできた歴史があり、その長い歴史のなかでさまざまな体験を通し培ってきたものがあり、今がある』という視点で患者さんを捉えてゆく上でも貴重な体験です。本校の三年間のカリキュラムのなかでも重きを置いており、学生の看護観・人生観がぐっと広がる実習のひとつでもあります。例年、本校の教育活動を共同事業として推進している東京民医連の院所をベースに訪問先を紹介していただきお世話になってはいるが、今年本校のある流山地域にもフィールドを拡大し取り組みました。

実習終了後、各グループで実践交

流をとおりて学びを共有し、見聞きして事実を整理し疑問を出し合いました。情勢の変化とともに厳しくなる労働条件の改善に

取り組む労働組合の重要性、パソコン・ロボットなど機械化が進んでいるがそれが壊れたら直すのは人の技。自分の仕事に誇りを持ち、職人技を守り続けている自営業・町工場の人々。繰り返す発作に苦しみながらも、子供たちに青い空ときれいな空気を残したいと闘う喘息患者さん。美味しく食べて体にいいものを食べてもら



いたいと、年中無休で愛情いっぱい野菜や花を育てている農業労働者の方々。「眠れる夜を返して」と在日米軍基地被害に立ち上がり闘っている方々から多くのことを学んできました。見聞きしてきた事実の整理と事前学習をもとに、今なぜこのような状況にあるのか、社会・経済の仕組み、歴史から学ぶ中でのような方向へ向かっているのが見えてきました。「日本はアメリカの言いなりなの?」「一部の利益のために国民が犠牲になつていて」「憲法で謳われている生存権がどんどん踏みじられていく」「知らないことの怖さを実感した」など率直な意見交換がされました。知ったからには何かできるのではないか、一人では力は小さいけれど集団の力で国をも動かせると『有事法制反対』『東京大気汚染裁判勝利

判決を求める』請願署名をクラスに呼びかけました。その後も忙しいスケジュールの中、有事法制反対の集会やデモ行進に参加し、量的変化は質的变化へ変えられることを実感しつつあります。

また、農業問題を夜な夜な語り合う中で実際に自分たちの口にするものは自分たちの手で育てたいと、十九名の学生が農業サークルを結成し、畑を借り、昼休みや放課後、休日と交代で見回り野菜を育てています。トマト、インゲン、なす、キュウリなどの夏野菜たちが、レポートに疲れた学生たちの心とおなかを満たし始めています。ちょっと見てくれれば悪いけど無農薬で愛情たっぷりのおいしい野菜を、ごちそうになりながら、行動力のある元気な六期生を国試全員合格目指して全力で応援するぞ!と心に誓う今日この頃です。

(1科3年担当 井上 裕紀子)

# 学童保育所 での 学びから

看護第2科では、各論の小児実習の一環として、学童保育所・保育所実習を4日間行っています。そのうち学童保育所では健康な学童期の子どもとのふれあい通じて、発達過程にある子ども達と身体を張って毎日体力勝負で実習しています。そして最終日には、健康学習会と称した会を開いています。今回はその健康学習会について、報告したいと思います。

まず、学生達は子ども達から「チユーしたことあんのか」「彼氏いるのか」「結婚してんのか」「エロだー」などの性に対して興味津々の言葉をぶつけられると言った洗礼から実習が始まりました。そして、学生達は子ども達の生き物を始めとした物を

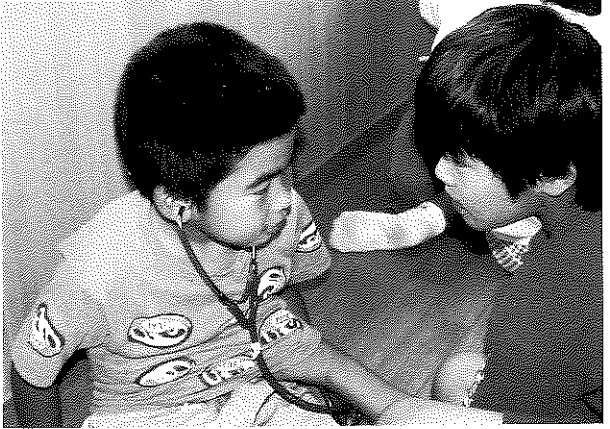
大切にしない様子や友達に対してすぐに「死ね死ね」といったりするところに心を痛めます。「お母さんとお父さんに愛されて待ち望まれて生まれてきたこと、沢山の精子の中から選ばれて自分が生まれてきたこと、自分を産むまでにお母さんはずっと大変だったこと、自分の命ってこんなに素晴らしいだということ」を子ども達に伝えたい健康学習会で紙芝居をすることにしました。紙芝居の他に、生まれたばかりの赤ちゃんの大きさを人形を持っていたり、お母さんのおなかのモデルも持っていたりして子ども達に触ってもらいました。



子ども達は皆、性についてとても興味があるので、キヤーカーワーワー大騒ぎになるかなど学生達は心配していましたが、とても静かに真剣に聞いて

くれ、学生達も驚いて感動していました。日頃よく騒いでいる子供が周りに「静かにしろ」と注意して聞いてくれたのが印象的でした。

学童の子ども達は一人っ子の子どもが多く、赤ちゃんを抱いたことがない子どももいて、「これくらい赤ちゃんがお母さんのお腹に入っていたんだよ。みんなもそうだったんだよ。すごいね。」と問いかけると、「うん！」と言いながら優しく赤ちゃんを抱きしめていました。いつもはやんちゃ坊主の言うことを聞かないガキ大将も、はにかんだようなステキな笑顔をみせてくれました。



子ども達に何を知らたいか質問をしたところ、「走ったりすると息がはあはあしたり、心臓がどきどきしたりするのはどうして？」といった素朴な疑問がでて、それを説明するといった学習会になりました。聴診器を持つていって子ども達に自分の心臓の音や肺の音を聞かせたりとこれまた大好評な学習会でした。

(担当教員 下 紀子)

# STOP!

## 有事法制

### 学生自治会



今、学生自治会は活動方針の柱の一つとして「有事法制」反対をあげています。学生自治会は平和ゼミナールと一緒に有事法制反対の集会・デモへの参加を学生に呼びかけてきました。四月二十六日、五月二十四日、六月十六日に都内で行われた集会・デモ行進に多数の学生が参加してきました。特に五月二十四日に明治公園で行われた集会・デモには学

生、教員六十人近くの参加がありました。デモ行進では「有事法制はんたーいー」「戦争協力法はんたーいー」「白衣を戦場の血で汚さないぞー」「医療を戦争の義性にすんなー」などなど、それぞれの思いを大きな声で呼びながら、二・二kmを歩きました。

三つのデモとも、五万人、六万人もの人が参加していて、有事法制に反対し平和を願って集まってきた人々がこんなにもたくさんいることを知り、とても驚きました。そして今、有事法制は今国会での審議が見送られる見通しになりました。これは有事法制反対の声をたくさんの人々があげた成果だと思えます。

私達学生の大半は、政治に対してあまり関心がないのが現状です。またもし政府の政策に反対の考えを持っていたとしても「しかたがないな。」とはじめから諦めてしまう学生が多いと思います。私もそんな学生の一人ですが、デモなどの反対運動の力によって、「実際に有事法案が見送られるの目当たりにする」と、一人一人の力は小さくてもみんな

なで声を出してゆけば大きな力になり、政治を動かすこともできるのだと思ひ直しました。

有事法案を完全に廃案に追い込むためには、今後も声をあげてゆくことが大切になります。学生自治会では、引き続き有事法制反対の運動を学生に呼びかけてゆこうと思ひます。また、学校内だけにとどまらず、千葉県内の看護学校の学生に同じ立場である医療従事者になるものとしての意見を聞き、『反対』の声を一緒にあげてゆけたらと考えています。

(学生自治会役員 渡辺 俊介)

### 平和ゼミ

「有事法制って何？」平和ゼミで今年是有事法制について勉強すると聞いた時の私の気持だ。家に帰り、父に有事法制について説明してもらった。どう考えても憲法違反の法案だった。知らない間にそんな法案が通されようとしている事に驚いた。そ

して知らない事の怖しさを感じた。平和ゼミでも、デモに行く前に有事法制についての学習会を2回行った。私は二回目しか出れなかったけれど、原爆の被害をアメリカが記録したビデオを見た。初めて見る生々しい映像がたくさんあった。こんな事が自分や周りの身近かに行ったらと考えるとゾツとした。学習会をして受験の時に勉強した事を思い出した。憲法第九条「戦争の放棄」を作ったのは、日本が戦争をしていた時に諸外国にやってきたひどい事を反省し、二度と同じ事をくり返す事のないようにという反省を込めたと勉強した。そんな憲法に違反する法案を通そうとしているのが不思議だ。戦後五十七年を迎えた今、戦争体験者から話を聞くという機会は、ほとんどない。だから戦争を知らない人がたくさんいる。私もその中の一人だ。だから当時の辛さ、悲しさや反省も忘れ去られていっているんだと思った。これを機会に、戦争についてもっと事実を知っていきたいと思った。

平和ゼミでデモに参加すると聞いた時、デモはテレビで少し見た事は

あったけど、自分が参加する事になるなんて思ってもなかった。とても不思議な気持ちだった。「どんな事をやるんだろう、自分でも役に立っているのかな」という興味と不安が入り混じっていた。でも、何もしないで法案が国会を通ってしまうのはイヤだった。デモに行くために昼休みを使ってプラカードを作ったりするのは楽しかったし、みんなの気持ちがある事法制を廃案するという目標に向かって一つになっているという事が嬉しかった。今まで、同世代の友だちと、こういう難しい話はできなかったけど、話ができる友だちがいるという事も嬉しかった。また、話をしていくうちこの法案を通してはいけないんだという気持ちが強くなった。デモ当日、とても緊張していた。デモに参加するという緊張感もあって白衣を着るという緊張感もあった。「ときめき病院探検」はジャージなどでやったので、白衣を着るのはこの日が初めてだった。また、ナースキヤップを先輩から貸してもらい、つける事ができ嬉しかった。白衣を着て集団で歩いていると物珍しそうに

通行人が見ていた。恥しかったけど、何か気持ちが良かった。明治公園に着くと想像していた以上にたくさん人が集つてののに驚いた。「こんなにたくさんの方が同じ目標を持って活動しているんだ」と思うと、嬉しくてワクワクしてきたのを覚えている。いざシユプレヒコールが始まる



と、始めは恥しくてあまり大きい声が出せなかった。でも気がつくと大声で叫んでいた。恥しいという気持ちはいつの間にか消えていて、楽しいと感じていた。私は、人前でしゃべったり、大声を出したりするのがあまり好きじゃないから、楽しいと感じている自分に驚いた、明治公園から代々木公園まで歩き終って振り返ってみると、自分の後にたくさんの方が歩いているのに驚き、感動して鳥肌が立った。

今、国会ではこの法案が継続審議の方向に向かっていると聞いた。もうすぐ通りそうな所までになっていた法案が、今国会では見送りという所まで戻っているというのはすごい事だし、たくさんの人たちの力が合さった力はすごいものなんだと改めて思った。行動が大切なんだという事も学んだ。これからもたくさんの活動に参加していきたいと思う。

今、平和ゼミでは原水禁世界大会への参加にむけて、カンパ活動に取り組んでいる。

(1科8期生 高原 ゆり恵)

# よろしく ごくろうさま

## 新任・退任 教員紹介



この四月に  
東葛看護学  
校の看護教  
員になりま  
した。越川  
江美です。

に！未熟な看護教  
員です。学生達が優しくしてくれま  
す。励ましてくれま。そういう訳  
で毎日頑張っております。二和病院  
で五年間看護師として働き、ある時  
は「歌って踊れるナース」、またある  
時は「いくつになっても熱い奴」と  
呼ばれて仕事をさせていただきました。看護  
教員生活は？これが楽しいのです！  
自分の未熟さに情けなることもある  
けれど、仕事での発見がうれしいの  
です。そして何より学生が愛しいの  
です！私、未熟ながらも教育者とし  
て信じていることが二つあります。  
一つは、どんな人間も努力の積み重  
ねによって必ず劇的に成長するとい  
うこと。もう一つは、一人ひとりを  
大切にすると一人ひとりの成長  
を促進するということです。それを

どうやって実践していくか、そこで  
大いに悩み、悪戦苦闘し、踏ん張っ  
ていこうと思います。大雑把でのん  
びり屋の私ですが、頑張りますのでど  
うぞよろしくお願いいたします。

(専任教員 越川 江美)



初めまし  
て。私は現  
在、千葉  
県の看護  
教員養成  
講習会に  
参加させて  
いただきます。  
最初は、  
臨床の現場から離れることに対して、  
抵抗感があったのですが、今では、  
自分にとつて、とてもいい機会が与  
えられたのだと思えるようになりました。  
というのも、現場にいた時は、  
目の前のことに精一杯で、自分のこ  
とをふり返ったり、看護について考  
える余裕もなく、ただ突っ走ってき  
ただからだと思います。今改めて「看  
護」というものに向き合い、自分の  
未熟さに気づき、身のひきしまるよ  
うな毎日を過しています。

「学ぶ」ということは、いたらぬ自  
分に気づき、その自分を励ましなが  
ら、新たな夢を育くむものだと思います。  
私も来年の二月には、教員とし  
て学校に戻ります。それまでに学  
びを深め「看護」の魅力について語  
れるようになりたいと思っています。  
皆さんと共に学び、夢を語りなが  
ら、共に育ちあつていけることを楽し  
みにしています。

(専任教員 小淵 尚子)

## 臨床に行つて一年



民医連育ち  
の私が、後  
継者育成  
をめざし  
て開校準  
備室から  
教育現場に  
とびこんで  
七年間、専任教  
員として常に医療労働者であること  
を問われる日々でした。

「病態がわかっている。本当にそ  
れでいいの。」と学生に問いかけな  
がら、そのことがいつも自分の課題  
でもありました。  
経験を重ねても授業は、胸がドキ  
ドキでした。学生がうなづいてくれ  
ることに力づけられました。

学生大好きな私は、学校の諸行  
事、平和ゼミの活動を通じて学生と  
共に頑張れ、四〇代を過すことがで  
きました。

昨年の三月にみさと協立病院の臨  
床にもどりました。病棟では、温  
泉とバスツアーを企画、病棟閉鎖、  
療養室病棟開設にむけて病棟丸ごと  
引越など貴重な体験をしました。  
一緒に働いている皆さんの先輩た  
ちは、いつも患者さんにやさしく声  
をかけ、患者さんの立ち場で業務改  
善に取り組み、医療活動に積極的  
に頑張っています。この頑張りの源は、  
東葛看護で「常に患者さんに真摯に  
むき合う姿勢や、学び方を学んだこ  
とにある」と同時に私も励まされて  
います。

臨床は超多忙です。さらに医療改  
悪が重なる中、いのちの平等が守ら

れないという現状できびしくなつて  
いますが、先輩と一緒に頑張ります。  
七月から新しい職場に移ります。

(前2科専任教員 二瓶 幸江)

## 編集後記

サッカーワールドカップは、ブラ  
ジルの優勝で約一ヶ月に渡る熱戦の  
幕を閉じた。

共同開催国の日本・韓国の健闘、  
二十世紀後半にフランスの植民地か  
ら独立したセネガルがフランスに勝  
利するなどの波乱もあり、本校も  
にわかサポーターも含め声援にわ  
いた。

そんな間隙をぬつて、医療改悪法  
案が、衆議院で与党に強行採決され、  
四十二日開会期延長された参議院で  
審議されている。反対署名は二六〇  
〇万人(五人に一人)を越え、世論  
調査でも五八%の国民が反対とい  
う。厚生労働委員会では六人の参考人  
のうち日本医師会をはじめ与党の推  
薦者も含めて四人が反対発言を行っ  
た。医療改悪を許さない国民の声は  
日に日に高まっている。六月に開か  
れた「国連子ども特別総会」(ほとん  
どの国連加盟国が出席)で、ペルー  
のトレド大統領が軍事費を二〇%  
削減して「食料、保健、教育へ拡大  
する」と発言して注目された。本校  
も引き続き医療改悪反対、S.T.O  
P！有立法制に奮闘中である。

学校通信編集委員会

深谷京子、机みどり、小澤清子